

## とりたて表現から見たモダリティ

野田尚史（国立国語研究所）

### 1. とりたて表現とは

とりたて表現とは、「だけ」「も」のように、語や句や節を焦点化したり非焦点化したりするものである。とりたて表現が表す意味は、大きく分けると、表1の6種類になる。

表1 日本語のとりたて表現の意味と形態（野田（2015））

限定	「だけ」「しか」など	反限定（例示）	「でも」「なんか」など
極端	「さえ」「まで」など	反極端（普通）	「なんて」「ぐらい」など
類似	「も」	反類似（対比）	「は」

とりたて表現を使うかどうか、また、どんなとりたて表現を使うかは、話し手の判断によるところが大きい。とりたて表現は、話し手の判断によるところが大きいという点でモダリティと似ている。そこで、とりたて表現とモダリティの関係を考察することにした。

### 2. とりたて表現とモダリティの呼応

とりたて表現には、(1)のようにモダリティと呼応しない（モダリティに制約がない）ものと、(2)のようにモダリティと呼応する（モダリティに制約がある）ものがある（野田（1995））。

- (1) 限定、類似、反類似を表すとりたて表現は、「前菜だけ食べた」「前菜だけ食べよう」「前菜だけ食べろ」のどれもが言えるように、基本的にモダリティと呼応しない。
- (2) 反限定、極端、反極端を表すとりたて表現は、「ラー油さえ手作りした」は言えるが、「\*ラー油さえ手作りしろ」が言えないように、基本的にモダリティと呼応する。

### 3. とりたて表現とモダリティが呼応する理由

とりたて表現とモダリティの呼応には、(3)のように意味的な理由によると考えられるものと、(4)のように文法的な理由によると考えられるものがある。

- (3) 「ラー油さえ手作りした」は言えるが、「\*ラー油さえ手作りしろ」が言えないのは、極端を表す「さえ」は話し手が客観的に外から見た評価を表すものだからである。
- (4) 特立を表す「こそ」が名詞述語や「のだ」が付いた動詞述語と呼応しやすいのは、「こそ」は文法的な焦点を表し、焦点を表しやすい構造の文と相性がよいからである。

この発表では、具体的なデータに基づいて、とりたて表現とモダリティの関係を考察する。日本語を中心にするが、他の言語との共通点や相違点にも触れる。

### 参考文献

- 野田尚史（1995）「文の階層構造からみた主題ととりたて」、益岡隆志・野田尚史・沼田善子（編）『日本語の主題と取り立て』くろしお出版。
- 野田尚史（2015）「日本語とスペイン語のとりたて表現の意味体系」『日本語文法』15-2.